

ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2012年6月

ISO/TC61(プラスチック)/SC11(製品)の最近の動向

ISO/TC61/SC11はプラスチック製品に係る規格を担当し、Pメンバー24カ国およびOメンバー13カ国から構成され、2012年4月現在で91件の発行済み規格と、30件の開発中規格を持っている。

ISO/TC61/SC11は、国際議長ならびに国際幹事は日本が務め、開発中の30件の規格のうち14件は日本の提案によるものである。また、今までのWGの枠組みでは捉えきれない韓国からの新規提案に伴い、昨年WG11が新設された。

現在のSC11のWG構成は次の通り。

TC61/SC11/WG2：高压化粧板及びSSM

TC61/SC11/WG3：プラスチックフィルム及びシート

TC61/SC11/WG5：高分子接着剤

TC61/SC11/WG6：ポリメタクリル酸(PMMA)シート

TC61/SC11/WG7：ポリカーボネートシート

TC61/SC11/WG8：無可塑ポリ塩化ビニルシート

TC61/SC11/WG9：鉄道用プラスチックまくらぎ

TC61/SC11/WG10：ブロー成形プラスチック材料

TC61/SC11/WG11：木材・プラスチック複合材

ここでは、日本提案の主なプロジェクトの進捗を報告する。

1. 主なプロジェクトの進捗状況

ISO/DIS 13636, Plastics - Non-oriented poly(ethyleneterephthalate) (PET) sheets (無延伸ポリエチレンテレフタレート(PET)シート)

これは、プラスチックリサイクルに関する基準認証研究開発事業の成果に基づき、TC61/SC9(熱可塑性樹脂)に提案中の2件と合わせて、世界で初めての具体的なプラスチックリサイクルに関する一連の規格である。PETボトルリサイクルは、世界共通の関心事でもあり、その再生手法もほぼ世界で共通していることから、再生PETボトルリサイクルの世界にはじめて一定の秩序をもたらす効果は非常に大きいと期待され、ISOでも注目されている。ISO/DIS 13636は、バージンPETを対象にしたJIS Z1716(包装用無延伸ポリエチレンテレフタレート(PET)シート及びフィルム)をベースに、PET樹脂再生材も原材料に取り扱えるようにした規格である。リサイクル規格開発がやや先行していた欧州とも十分協調しつつ、その他の各国意見も丁寧に対応しながら進められてきており、今後、FDISに進む。

ISO/DIS 12856, Plastic railway sleepers (鉄道用プラスチックまくらぎ)

この規格は、JIS E 1203:2007, "合成まくらぎ"を基にして、提案されたもので、

H20年に新規提案として承認された。木まくらぎに比べ長寿命等の多くの長所だけでなく、森林資源保護の観点からも注目され、国内はもとより、海外での採用も始まっている。従来のSC11傘下WGの守備範囲にない規格のため、新しくWG9が作られた。各国の関心も高く、カテゴリー区分について各国との調整はできたが、昨年9月のクアラルンプール国際会議において、フランスより新規耐候性評価法の採用要望があり、DIS原案に盛り込むこととなった。

ISO/DIS 16525-1~3, *Isotropically electrically conducting adhesives* (等方性導電性接着剤)

これは、従来のハンダとは異なり被着体を選ばず、より低温実装と高温耐熱性を実現するものであり、NEDOの国家プロジェクトとして試験方法が開発され、それを国際規格化するものである。全9部構成を予定であるが、他の6部も新規提案しクアラルンプール会議においてDISへ進捗することが承認された。

ISO/DIS 11963, *Plastics - Polycarbonate sheets - Types, dimensions and characteristics* (プラスチックポリカーボネートシートタイプ、寸法、特性)

この規格は、より効果的なアニール条件とすべく日本より改正を提案し承認され、現在、FDIS作成中である。

さらに、昨年度のクアラルンプールTC61/SC11/WG3会議において「Plastic films for organic electric devices- Determination of water vapour transmission rate -Instrumental method (有機電子デバイス用プラスチックフィルム—水蒸気透過速度の測定方法—機器による方法)」に関する予備提案を日本より行い、同時にWG3のコンベナーの退任に伴い、後任を日本が引き受けることにより規格開発を有利に進める目途を得たので、本年度には新規提案する予定である。

2. 国際規格発行

2011年度は、以下の規格が国際規格として発行された。

ISO 23559, *Plastics - Film and sheeting - Guidance on the testing of thermoplastic films* (プラスチックフィルム及びシート—熱可塑性フィルムの試験の手引)

以上